

現実味を帯びてきた録音審査

埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト ホールで録音

新型コロナウイルス感染症は衰えをみせず、死者数が激増しています。新たに出現したオミクロン株の変異株XBB.1.5は、実効再生産数がそれまでのBA.5の2.22倍もあります。

1月15日から3日間開催される埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテストの録音審査という救済措置が現実味を帯びてきました。

男声合唱団コール・グランツは、救済措置に備え、1月9日イリスホール(埼玉県久喜市：座席数476)で録音をしました。コロナ禍ならではの事態です。複数の曲を演奏する場合は連続して録音しなければならない規定ですので、千原英喜作曲「夜もすがら」と「わが抒情詩」を2曲続けて演奏し録音しました。

ステージには反響板をセットし、コンテスト本番を想定し、立ち位置は指定の前後1mの間隔を取り、マスク着用で演奏しました。とくにこの立ち位置を取る必要はありませんでしたが、ゲネプロのつもりで本番と同じ位置で歌い、他のパートがどこまで聴こえるか確認しました。

【マイク種別・設置位置】

- ① コンデンサーマイク(AKG C414ドイツ製)2台：客席後方
- ② リニアPCMレコーダー-1(TASCAM日本製)：中央やや後
- ③ リニアPCMレコーダー-2(TASCAM日本製)：中央やや前
- ④ 吊りマイク(ホール据付け) 【いずれもWAV形式で録音】

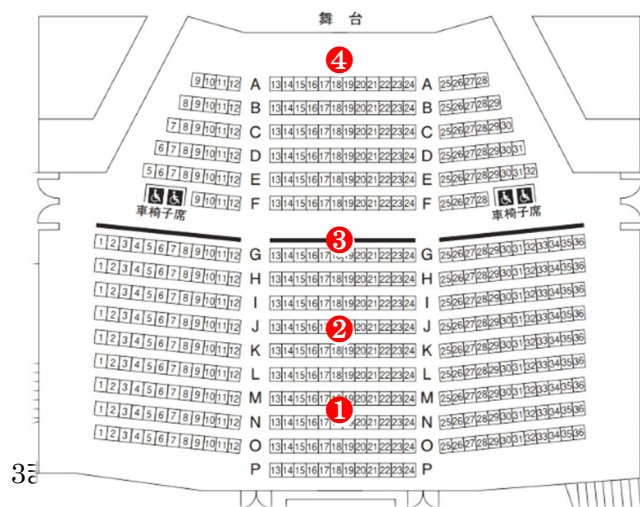


リニアPCMレコーダーは、非圧縮の「リニアPCM形式」で高音質の録音ができるデジタルレコーダー。通常のICレコーダーはMP3などの圧縮方式のため、データ容量を節約できる反面、音質はリニアPCMに劣ります。



録音は3回行いました。Take1は録音条件の確認のためでもあったので、対象からは外しました。Take2ではほぼ現在の仕上がり状態で歌うことができ、Take3はTake2と演奏上ほとんど差がない状態でした。

ホール据付けのステージ前方の吊りマイクを参考までに使いましたが、客席で聴く音とはまったく異なり、一人一人の声が混じり合わず、生の声そのまま録音されていました。これは当初より予想されていた通りです。多くの方々が経験されていることかと思えます。もっとも、個々のメンバーの歌い方を確認するためにはうってつけでしたが。



コンデンサーマイクに勝るものはない

Take2と3について①～④の8種類の音源の物理的な音響特性を5段階に分けて評価しました。マイクの機種による特性は出ていますが、やはり放送局仕様のコンデンサーマイクが最も優れていました。結論として①コンデンサーマイク録音を採用しました。但し、ホールのスピーカーは様々でしょうから、思ったような音が再生されるかどうかは不明です。また、演奏上の良し悪しや音楽性などについては、審査員の方々に委ねるしかありませんが…(；)

【5段階評価】

	①	②	③	④
ダイナミックレンジ	5	5	5	5
周波数特性	5	5	5	5
歪み・音の硬さ	5	3	4	3
残響特性	5	4	4	2
心地よさ	5	4	4	3
評価点	25	21	22	18

コンテスト本番では、演奏時の指揮者のマスク着用は、任意となりました。但し、本番演奏時以外(リハーサル、館内)は、常時着用が義務付けられています。録音を済ませて一安心です。残りの1週間感染防止に努め本番に備えます！